

報道関係各位

**NEWS RELEASE**

株式会社テクノマセマティカル  
(証券コード：3787 東証スタンダード)

**林野庁の新技术推進対策事業に TMC 独自技術を用いた提案が採用されました**  
～山間地での遠隔操作・自動運転に向けた、低遅延・高圧縮の映像モニタリング等を実証実験～

株式会社テクノマセマティカル(本社：東京都品川区、代表取締役社長 田中正文)のオリジナルコーデック技術を用いた提案が、林野庁補助事業として一般社団法人林業機械化協会が実施する「先進的林業機械緊急実証・普及事業」に採択されました。

本事業は、林業における現場の危険回避を目的とした、林業機械等の遠隔操作・遠隔監視・自動運転の実現に加え、これまでボトルネックとなっていた山間地の通信環境課題を解消するシステム構築を目指すものです。

弊社は、山陽商事株式会社、一般社団法人 MIKATA プロフェッショナルズ、株式会社加藤製作所、株式会社リプロと共同して新たに開発・実証する上記システムに対し、独自アルゴリズムを活用した低遅延・高圧縮を実現するオリジナルコーデック技術の提供と映像伝送実証を行います。

**先進的林業機械緊急実証・普及事業の取組概要**

山陽商事(株)、(株)加藤製作所、(一社)MIKATAプロフェッショナルズ、(株)リプロ、(株)テクノマセマティカル

山間地で林業機械等の遠隔操作や自動運転を可能にする支援システムの実証等  
可搬性の通信機能付き作業杭を利用した通信ネットワークを構築し、携帯電話通信圏外の山間地でも林業機械等の遠隔操作や自動運転を可能にする通信ネットワークを活用した技術実証等を行い、林業作業の生産性及び安全性の向上を図る。

支援システム実証全体図



①通信機能付き作業杭を利用した通信ネットワーク構築



②通信技術等を活用した映像伝送実証



③通信杭と衛星を活用した高精度位置測位実証



【実証・機械改良等の計画概要】

- 通信杭(通信デバイスとバッテリーを内蔵した可搬性の作業杭)を、一定の間隔(200~300m)で地面に挿し、無線通信でリレー式に繋げるにより、携帯電話通信圏外の山間地における通信ネットワークを構築。(①)
- 将来的に林業機械の自動化・遠隔操作化が実現した場合を想定して、作業機械に備えた高精細カメラや作業現場周辺に設置した無線カメラの映像をデータ圧縮技術や通信杭を活用した無線通信等を利用して伝送し、遠隔地から山間地での機械作業の状況等を遅延なく映像モニタリングする実証を行う。(②)
- RTK技術を応用し、通信杭と測位衛星を連動させて林業機械の高精度な自己位置を測位する実証を行う。(③)

※今回採択された提案で用いるオリジナルコーデック技術は、以下の弊社製品等の他お客様製品にも採用実績があります。

- 低遅延 IP 伝送システム ([https://www.tmath.co.jp/product/ve\\_tm7006\\_7sr\\_fhd\\_lltncy\\_iptrnsys/](https://www.tmath.co.jp/product/ve_tm7006_7sr_fhd_lltncy_iptrnsys/))
- Point-One ([https://www.tmath.co.jp/product/ve\\_pointone\\_lltncy\\_mblvdotrnsys/](https://www.tmath.co.jp/product/ve_pointone_lltncy_mblvdotrnsys/))
- WiFi Sync Viewer ([https://www.tmath.co.jp/product/ve\\_wifisyncviewer\\_50u\\_vdodtbsys/](https://www.tmath.co.jp/product/ve_wifisyncviewer_50u_vdodtbsys/))

お問い合わせ先：株式会社テクノマセマティカル 本社 国内営業部  
TEL：03-3492-3633 E-mail：info-sales@tmath.co.jp